

泌尿器科 臨床研修到達目標（必修）

1. 特徴

泌尿器疾患に対する外科的治療（開腹手術、腹腔鏡下手術、経尿道的手術、経皮的手術）ならびに内科的治療（抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤）を経験して基本的知識を学ぶ。

2. ねらい

泌尿器疾患に対する基本的知識を習得し、患者さんの症状を理解でき、診断に必要な各種検査を選択することができ、適切な治療を選択することができる。

3. 一般目標

1) 診察

(1) 外来

- ①患者さんの問診、病歴の作成を正確に行うことができる。
- ②診断に必要な検査を選択し施行することができる。

(2) 病棟

- ①術前、術後の病態の変化を判断し、適切に対応することができる。

2) 検査

- 1) 尿の定性検査、沈査標本の作成と鏡検ができ、その結果を解釈できる。
- 2) 腎機能検査（総腎機能、分腎機能）の意義を理解し、その結果を解釈できる。
- 3) レントゲン検査（排泄性尿路造影、逆行性尿道造影、膀胱造影など）を実施することができる。
- 4) 腹部、骨盤部 CT や MRI で泌尿器科疾患の所見を指摘できる。

3) 処置、手術、その他

- 1) 男性および女性の導尿ができる。
- 2) 尿道・膀胱留置カテーテルの挿入、膀胱洗浄を行うことができる。
- 3) 陰嚢水腫、精液瘤の穿刺、吸引ができる。
- 4) 小手術（背面切開術、体外衝撃波結石破砕術、膀胱異物・結石摘出術）の助手ができる。

4. 研修方略

研修医一人に対して、指導医全員で全般にわたる指導を行うと共に、指導医それぞれのスペシャリティに応じた指導も行う。担当する症例については、各担当医を中心に全員で指導に当たる。1日2回の病棟回診で入院症例の検討を行い、症例検討会において、外来診療での疾患に対する理解を深め、診療について研修する。医局会では医師としての基本認識について研修する。

検査としては、基本的な視診、触診に加え、直腸診、精巣の触診、尿沈査の見方、排泄性尿路造影、逆行性腎盂造影、尿道膀胱造影、腹部骨盤部超音波検査、CT、MRI、などの方法、所見のとり方を指導医と共に学ぶ。処置手術においては、男性、女性の導尿、尿道・膀胱カテーテルの留置、膀胱洗浄、小手術の助手ができるよう指導医のもと研修する。

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
泌尿器科	病棟 ESWL	病棟	手術	病棟 ESWL	手術	手術
	前立腺生検 内視鏡検査 回診 症例検討会	前立腺外来 内視鏡検査 回診	手術 回診	前立腺外来 内視鏡検査 回診	手術 回診 医局会	回診

6. 研修評価

- 1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う
(症候、疾病・病態の経験についてはPG-EPOCにて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する
(症候、疾病・病態の経験についてはPG-EPOCにて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 橋本 剛

指導医 石田 卓也、福島 貴太

泌尿器科 臨床研修到達目標（選択）

1. 特徴

外科的治療（経尿道的手術、経皮的手術、腹腔鏡下手術、開腹手術）ならびに内科的治療（ホルモン治療、抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤）を経験して泌尿器疾患全般を学ぶ。

2. ねらい

泌尿器疾患に対する基本的知識を習得し、患者さんの症状を理解でき、診断に必要な検査を施行することができ、適切な治療を施行することができる。

3. 一般目標

1) 診察

(1) 外来

- ①患者さんの問診、病歴の作成を正確に行うことができる。
- ②診断に必要な検査を選択し施行することができる。
- ③療養に必要な生活上の注意を分かりやすく説明することができる。

(2) 病棟

- ①手術に先立って必要な検査や処置が理解でき、施行することができる。
- ②術後の病態の変化を判断し、適切に対応することができる。

2) 検査

- 1) 尿の定性検査、沈査標本の作成と鏡検ができ、その結果を解釈できる。
- 2) 腎機能検査（総腎機能、分腎機能）の意義を理解し、その結果を解釈できる。
- 3) 泌尿器科で行なう各種レントゲン検査（排泄性尿路造影、逆行性尿道造影、膀胱造影など）を実施することができ、異常所見を指摘することができる。
- 4) 腹部、骨盤部 CT や MRI で泌尿器科疾患の所見を指摘できる。
- 5) 尿道・膀胱内視鏡検査の適応・禁忌が判断でき、施行することができる。
- 6) 前立腺超音波検査および生検ができる。

3) 処置、手術、その他

- 1) 男性および女性の導尿ができる。
- 2) 尿道・膀胱留置カテーテルの挿入、膀胱洗浄ができる。
- 3) 陰嚢水腫、精液嚢の穿刺、吸引ができる。
- 4) 小手術（環状切除術、体外衝撃波結石破砕術、膀胱異物・結石摘出術）の術者ができる。
- 5) 手術（精巣摘出術、陰嚢水腫根治術、腎摘出術、腎尿管全摘出術、膀胱全摘出術および尿路変更術、前立腺全摘出術、経尿道的膀胱腫瘍切除術、経尿道的前立腺切除術、腎瘻造設術、経皮的腎結石砕石術、経尿道的尿路結石砕石術）の助手や術者ができる。
- 6) 病棟の術前術後の管理や輸液、各種留置カテーテルの管理ができる。

4. 研修方略

研修医一人に対して、指導医全員で指導を行うと共に、指導医それぞれのスペシャリティーに応じた指導も行う。担当する症例については、各担当医を中心に全員で指導に当たる。1日2回の病棟回診で入院症例の検討を行い、症例検討会において、外来診療に対する理解を深め、診療について研修する。

医局会では医師としての基本認識について研修する。

検査としては、基本的な視診、触診に加え、直腸診、精巣の触診、尿沈査の見方、排泄性尿路造影、逆行性腎盂造影、尿道膀胱造影、腹部骨盤部超音波検査、CT、MRI、などの方法、所見のとり方を指導医と共に学ぶ。処置手術においては、男性、女性の導尿、尿道・膀胱カテーテルの留置、膀胱洗浄、外来小手術の助手、入院患者さんの手術の助手ができるよう指導医のもと研修する。

※週間スケジュール・研修評価・指導体制は必修と同様